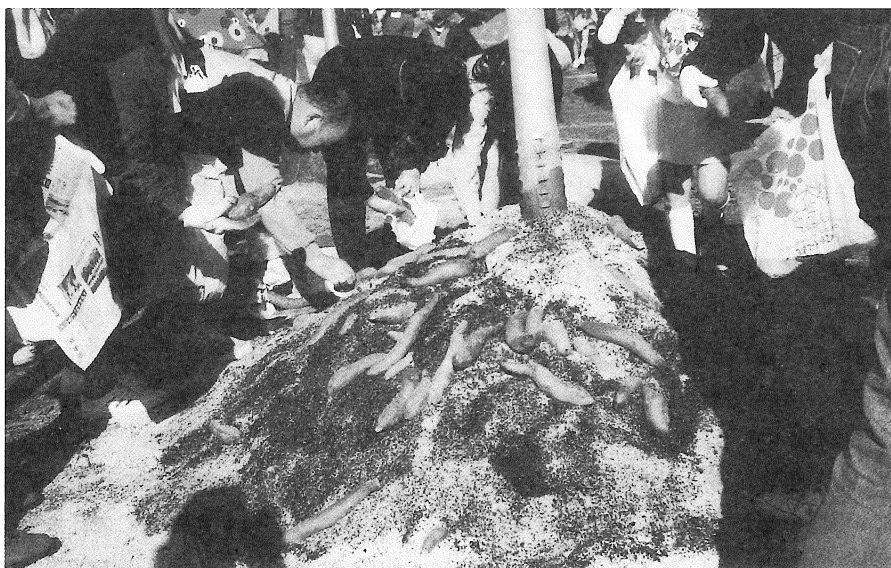




◀ 焼いもの山

栗源のふるさといも祭

いも類振興情報・編集部

平成7年11月19日（日）、抜けるような秋晴れのもと、第8回「栗源のふるさといも祭」が催されました。

栗源町は千葉県東北部に位置しています。東京からの交通の便は決してよいとはいえませんが、浜松町始発東京駅八重洲口経由の高速バスに乗ると間もなく高速道路に入り、成田空港のわきをとおり大栄町^{たいえい}経由、出発後約1時間10分で栗源停留場に到着します。成田空港近くまでは沿道に人家や小工場などがあるものの、それを過ぎると全くの田園で、生垣に囲まれ色づいたカキの樹がある農家、ダイコン畑、収穫の終わったさつまいもの畑など、しばらく前までは東京付近でもあちこちに見られた風景が展開し、空気も甘く、ホッとした感じになります。栗源のバス停もこのようななかにポツンと立っており、バスで当町を

訪れた人たちは自分の足で歩いて目的地に向うか、あるいは迎えに来てもらうほかはありません。

祭り当日は、バス停と祭り会場との間に役場の連絡用マイクロバスの便が設けられ、筆者もそのお世話になりました。

1. 家族連れが楽しめる会場

いも祭会場には栗源町民運動広場があてられましたが、ここは広い野球場といった感じでした。

午前9時半、少し早いかなと思いつつ到着した会場でしたが、すでに数百人あるいは千人近くの人たちが集まっていました。中央には大きな“ふわふわネッシー（ビニール製）”がおかれ、また数々の“かかし”が並び、そのほか家畜用特大カボチャ（ボンキン）、またミニSLもありました。かかしはコンクー

ルのために作られたもの、特大カボチャは目方当てコンテスト用に置かれたもので、いずれも祭の終り近くに入選者に表彰状と賞品が授与されました。これらを囲むようにして農協、青年部、婦人会その他町内関連団体の出店がありました。

祭り会場を訪れる人たちは仲間連れ、家族連れがほとんどで、とくに日曜日とあって子供連れを多く見かけました。ふわふわネッシー、ミニSLはとくに子供たちの目をひき、そのまわりにはいつも多勢集まってさわってみたい、動くSLに乗って歓声をあげていました。

10時すぎには町内各地の子供会がそれぞれ趣向をこらしてつくったみこしをかつぎ、ハッピー姿でワッショイ、ワッショイの元気なかけ声のもとパレードをくりひろげましたが、みこしもふつうの形のもののばかりでなく、マンガの主人公、野球のヒーローなどをモデルにしたものが多く、子供たちも参加するのを楽しみにしているさまがうかがえましたが、みこしは会場を一周したあと、円形に並んだかかしのまわりに勢ぞろいしました。

2. 農畜産物オンパレード



▲子供みこし

栗源町は農業を主産業としており、そのなかでもベニコマチに代表されるさつまいもは目玉であり、祭の名称そのものも「栗源のふるさとも祭り」とされ、特産ベニコマチのPRを第一と考えられていますが、それとともに町の農畜産物について町内ばかりでなく、広く外部にも知ってもらおうとの企画が進められているように感じました。

会場内の出店をのぞいてみることにしましょう。農村ですのでこの地域の農産物であるさつまいもをはじめゴボウ、ヤマトイモ、ニンジン、ラッカセイやら干シイタケなど、そのほか多彩な果物、鉢植の花などが多く目につきましたが、町をあげてのお祭りですからその他の商品あるいは宣伝も行われていました。

農協の住宅リフォーム相談、金物売場、老人介護教室、健康相談、木工教室、衣類のバザー、灯油エンジン、プラスチック製品、郵便局などですが、この町はまた農産加工業、畜産業もさかんで、本格焼酎の産地であることはここを訪れてはじめて知り、試飲も行われていました。

加工品としてはその他手造りミソ、コウジ

のほか健康によいとの宣伝文句で紫色のシソジュースもあり、またこの一角では甘酒の無料サービスも行われています。畜産物としては牛肉豚肉販売のほか手造りのアイスクリームも売られ、これはむしろシャーベットといった感じですが、甘味をおさえた舌にザラつく

感じはいかにも田園風で人気を集めていました。鉄板造りの小屋で時間をかけて焼き上げた牛の丸焼き、それに豚汁も無料で提供され、長蛇の列ができ皆おいしそうに試食をしていましたが、さらに変わったところでは牛のちちしぼり体験がありました。

これは12時から午後1時までと時間がきめられ、枠に固定された乳牛から希望者が乳をしぼるのですが、慣れない素人に半ばオモチャにされる牛にとってはさぞ迷惑なことだったのではないのでしょうか。しかし牛乳はこのようなにしてしぼられるもの、を体験し、また直に家畜に触れ、自然の恵を自ら肌で感ずることができ、まことユニークな発想、催しであると感じ入った次第です。またずらりと並んだ出店のなかに中学生たちが焼いもをつくり売っているのがありましたが、これもさつまいもはどうして焼くかを知り労働を体験したことで、彼等にとってはまことに得難いひとときであったにちがひなく、私も中学生の手から出したばかりの熱いもを受取り、土の香りとともに畑の恵を楽しく味わいました。

3. 楽しいイベントの数々

催し物としては子供みこし、かかしコンクール、特大カボチャコンテストのほか、設けられたステージで楽しいイベントの数々が催されました。

下総楽太鼓はこの地方に伝わる太鼓で、いろいろの大きさ、形の太鼓を数名が組となって打ち鳴らすもので、実演者全員の呼吸がピッタリと合わなければならず、きっとこの日のために忙しい合間をみてどんなにか練習をくり返したことでしょうか。数組がそれぞれ名演技を披露しましたが、終る都度大きな拍手がわきおこり、観客はその労をねぎらってい

ました。

どちらかというとな配の人たちに人気があったものはこのほかに、栃木県足利市から招いた80歳をすぎた元気なお年寄りによる本場八木節で、その反対に若い人たちに受けたのはグループ“キューティーパイ”によるコンサートで、いかにも若者向きの演奏がはじまると、いつしか数名がステージのかたわらにとび出し音楽に合わせ、手を振り腰をくねらせておどるほどでした。

これらのほか“おいもを食べて大声を出そう”のコンテスト、中年女性を若返らせスマートにするためのユニークダンスの指導も行われて、展示品を眺めたり買ったりするだけでなく、催しの面でもたいくつせず楽しい時が流れてゆきました。

4. 工夫の結晶、さつまいもおやつ料理コンテスト

さつまいもの普及をはかるには、多くの人が好み、またもっともさつまいもの持ち味を生かせる焼いもを食べてもらうのも一つの手段でしょうが、家庭でできる簡単なおやつや料理を工夫してつくることがたいへん有効と思われるます。

ビタミン、ミネラル、食物せんいを多く含むさつまいもの食品としての価値は認められていても、いざ使うとなると甘味があってもかすにはしにくい、おやつもチョコレートやケーキなどにくらべて見栄えも悪く、子供たちの好みに合いにくい、さらに形が悪く調理しにくい、など難しい面もあるようです。しかし会場には町内の主婦を中心とした力作のおやつや料理が展示され、さつまいものPRと販路拡大に少しでも役立てようとの意気込みが感ぜられました。

以下展示されていたおやつと料理の品名を

紹介します。

大学いも、チーズ・イン・スイートポテト、さつまいものスイートポテト、さつまいものケーキ、さつまいも入りカステラ、イモプリン、小春びより（ヨモギ入りいもようかん）、芋タルト、いもおはぎ、スイートポテトムース、オサツドッグ、さつまいもキャンデー、まんじゅう、中華風いも揚げまんじゅう、スイートオレンジポテト（クレープの中味がさつまいもとオレンジ）、さつまいものお菓子（洋菓子風の上にクリームとミカンをのせる）、ふっくらスイートケーキ、なつかしの小町まんじゅう、さつまいも三色ボール（黒ゴマ、白ゴマ、青ノリ）、パンプキンチーズケーキ（さつまいも、クリームチーズ、タマゴ入り）、さつまいも二色どらやき、さつまいもドーナツ、おいもの三色クッキー風。

さつまいも入り酢豚、チーズのおさつ衣揚げ、ポテトファンタジー（柿をくりぬいてさつまいもその他の野菜を入れたもの）、さつまいものコロッケ、さつまいものスコッチエッグ、春巻風さつまいものチーズ巻き、スイートオムレツ（さつまいも入り）、スイートコーンクリーム、中華ちまき（さつまいも、トリ肉、ニンジン、シイタケ入り）、カレーパン、さつまいもと豆腐のパイ。

甘味のあるさつまいもは、どちらかというとお菓子に向いていますが、おやつとともに食後のデザートとなれ

ば食卓に登場し、にぎわすチャンスもより多くなるのではないかと期待します。

5. 日本一の焼いも広場

農業祭の色あいが濃い祭ですが、何といっても主役はさつまいもで、とくに栗源特産ベニコマチ2トンをもみがらを燃やした火でゆっくりと焼く「日本一の焼いも広場」はこの祭の最大イベントといえるでしょう。

広場にはトタンでつくられたジョウゴ形の火おこしの周囲にもみがらを置き、その中にベニコマチを入れ着火し、ときどきもみがらを追加して焼いている山が数十ヵ所も設けられ、あわい煙がゆっくりと立ちのぼり、まさに「日本一」の名に恥じぬ広場です。ゆっくりいぶすように焼くので時間がかかりますが、きつと係の人たちは前夜から準備をしていたにちがいがなく、大きな出し物の陰には目に見えぬ大へんな苦勞があったことでしょう。

午前11時30分、数発の花火が打ちあげられいよいよ焼いも広場の解放です。係の人がレーキでまだくすぶっているもみがらを除くと中からベニコマチが数本顔を出しました。強く



▲焼いも会場

ない火でゆっくりと焼いたためか、皮は黒く固くこげることはありません。

山のまわりに集まった親子連れ、夫婦連れあるいはグループの人たちが熱い焼いもを1本づつてのひらでころがし、もむようにして会場のわきまでもってゆき、思い思いにあるいは立ったまま、あるいは車座になってこげていない皮をむいておいしそうに食べはじめます。「おいしいわね」「うん、とてもうまい」「あーおいしい」「もう1本食べたいな」など感嘆の声があちこちから聞えてきます。掘ってからあまり日がたっていないせいか、焼いもは甘味はややうすいもののホクホクとしていて食べやすく、まさにさつまいもの女王ともいべきすばらしい味でした。この味を知ったならば焼いもファンもきっとふえることでしょう。

午後0時30分ごろ最後の山があげられ、同40分ごろには大好評のうちに終了しました。

6. 豊かなみのりに感謝をこめて

祭は自然に囲まれた広い会場で澄みきった秋空のもと行われ、まさに農村にふさわしい収穫を感謝する行事でした。人出はおそらく数千人に達したことでしょう。そこには都会の祭のような洗練された、華やかさはなかったかもしれませんが、土に親しみ自然を愛する人ならば誰もが感ずるであろうぬくもりがありました。

日本の農業も年々とりまく環境がきびしく、どのような作物をつくっても、どのような家畜を飼養し、また加工に工夫をこらしても、また不作でも、逆に豊作でも農家経営、ひいては農村の運営は気楽なものではないでしょう。この栗源町も大消費地を近くに控えた近郊農村地帯とはいいいながら例外ではなく、関

係する方々はどんなにかご苦労が多いことかと察します。

とはいえ、農に携わる人たちにとっては豊作は何ととっても喜びであり、一年間の労苦がむくいられる感がするものでしょう。この祭の会場もすばらしい明るい笑顔にみちみちていました。このすばらしい「栗源のふるさと いも祭」がこれからも毎年続けられ、栗源農業の真価を少しでも多くの人たちが知る一つの場となることを祈ってやみません。

編集後記 なぞに包まれた国北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）が食糧不足を公にせざるを得なくなってからしばらくが経ちましたが、厳寒期を迎えての惨状は想像を越えるものがあるようです。北朝鮮は馬鈴しょの生産地で、韓国のいも研究者も「北韓」にはいい種いも生産適地があるのになあ、とうらやんだものでした。このたび馬鈴しょは救荒作物としての真価を発揮できたのでしょうか。体制をこえて食糧確保がいかに大切かを認識させられます。

いも類振興情報 第46号

平成8年1月15日発行

発 行 所 財団法人 いも類振興会
東京都港区赤坂6-10-41
ヴィップ赤坂303号室
電 話 03-3588-1040
FAX 03-3588-1040
振替 00130-1-110152
印 刷 所 交通印刷株式会社